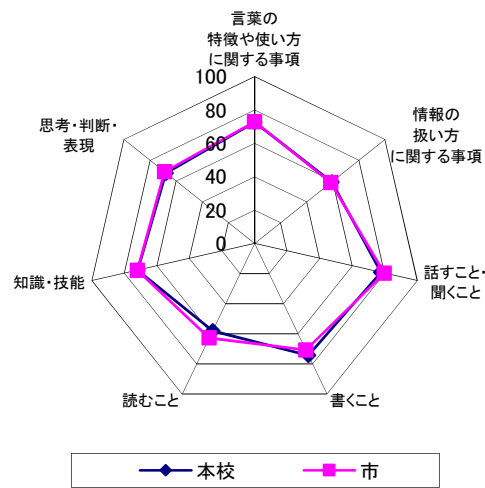


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	72.7	73.0	75.5
	情報の扱いに関する事項	59.3	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	77.6	79.8	75.9
	書くこと	74.3	70.7	71.7
	読むこと	58.0	62.8	62.5
観点別	知識・技能	71.8	72.0	74.4
	思考・判断・表現	67.8	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

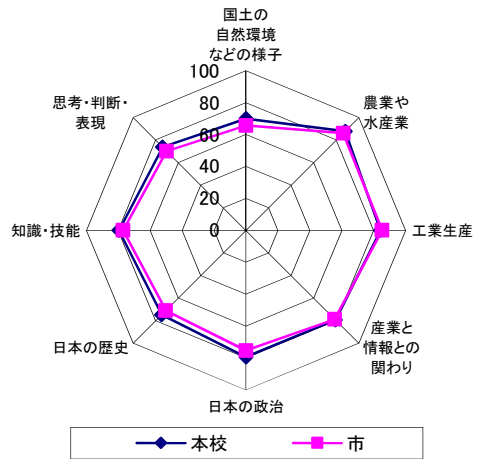
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて0. 3ポイント低い。 ○三字の熟語の構成の理解について、市の平均を10. 5ポイント上回る。教科書で扱われる「様々な熟語」で学習した内容の類似問題で定着を図った成果と考えられる。 ●漢字の読み書きに課題が見られた。	・文章を書く際に既習の漢字は必ず使うようにし、正しく書けるようにする。 ・漢字の指導の際には、字の成り立ちや意味も確認しながら、熟語や関連する漢字を取り上げるようにする。 ・教科書の音読を任せきりにせず、時々読み方を個別に確認するなど、正確に読むことができるようにする。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて0. 8ポイント高い。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単にまとめて書く問題で、市の平均を0. 8ポイント上回っている。条件に沿って、短文を書く指導をくり返し行ってきた成果と考えられる。	・複数の情報を関連付けながら読み取ったり、問われていることを考えながら整理したりする活動を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて2. 2ポイント低い。 ●話し合いの内容を聞き取る問題では、考えをまとめるための空欄補充に誤答が多く、話題の大切なことを落とさずに聞くことに課題が見られる。	・話し合い活動では、相手の話を聞く際に、話題の中心を考えながら聞く活動を取り入れていく。 ・大事なことを落とさず聞けるようにするために、国語の学習だけでなく、他の教科や普段の学級活動の中で、話の聞き方を継続的に指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて3. 6ポイント高い。 ○文章を書くことについて、自分の意見とその理由を明確にして書く問題で、市の平均を7. 6ポイント上回っている。自分の意見を書く練習で、説得力のある文章を書くために、理由を付けて簡潔に伝えることを繰り返した成果と考えられる。 ●報告する文章を書く問題で、考えを明確に伝えるための記述の工夫に課題が見られた。	・考えを明確に伝えるために、文の組み立てや文章の構成を確かめながら書く活動を取り入れる。 ・いくつかの条件に沿って書いたり、文章を簡単にまとめて書いたりする学習を取り入れることで、自分の考えを明確に伝える力を高めるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて4. 8ポイント低い。 ○物語文の読み取りでは、登場人物の様子について、描写を基に捉える問題で、市の平均を0. 6ポイント上回る。 ●物語文の読み取りでは、表現の効果を適切に考える問題に課題が見られた。	・図書委員や教師によるお勧めの本を紹介したり、読み聞かせの機会を設けることで、様々な作家の図書に関心を持たせ、物語文の表現に慣れるようにする。 ・自分が読んだ本の紹介をする活動を取り入れることで、児童一人ひとりの読み取る力を見取るようにする。 ・物語文の読み取りで、表現の効果を考える力を高めるために、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしてペアで伝え合う活動を取り入れる。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.0	65.7	67.0
	農業や水産業	87.9	86.1	77.5
	工業生産	84.3	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	79.3	78.6	69.6
	日本の政治	79.3	75.2	65.8
観点別	日本の歴史	74.8	71.1	69.1
	知識・技能	79.6	77.0	72.8
	思考・判断・表現	73.9	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られたもの ●課題が見られたもの

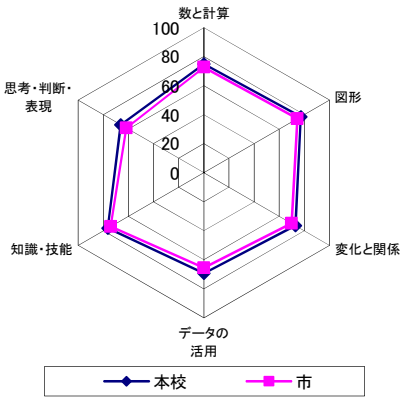
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均と比べて4.3ポイント高い。 ○日本の周辺の海洋名について、市の平均を7.3ポイント上回っている。地図を用いて、日本が海に囲まれた国であることや、周辺の海について確認をしながら学習したことの成果であると考えられる。 ●日本の領土の端について、最南端の島の名称についての理解に課題が見られた。	・日本の端の島の名称は誤って覚えやすいので、地図を使って確認するとともに、領土の概念についても5学年の早い時期にしっかりおさえることで、その後の学習(地理・歴史・政治)につなげていけるようにする。 ・地理的な学習の時だけでなく、様々な学習の機会に地図を開き、場所を確認して印を付けるなど、地理的な感覚を養っていくようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均と比べて1.8ポイント高い。 ○圃場整備の資料に着目して、米づくりの生産効率について考え、表現する問題では、正答率が市の平均を5ポイント上回っている。資料の意図を正しく読み取り、分かったことを言葉で表す学習を繰り返してきた成果と考えられる。 ●水産業の国内生産量と輸入量の変化について、資料の読み取りに課題が見られた。	・「国内生産量」や「輸入量」といった社会科の言葉を理解し、一つのグラフの中にある様々な情報を正確に読み取れるようにするために、教科書に出てくる言葉を授業の中でよく確認する。 ・水産業の単元の学習では、本県は海に面しておらず海に行ったことのない児童も少なくないため、漁業法の種類の学習では、デジタル教科書の動画やインターネットの資料を使うなど指導の充実を図る。
工業生産	平均正答率は、市の平均と比べて1.1ポイント低い。 ○環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較して表現する問題では、正答率が市の平均を1.6ポイント上回っている。複数の資料から分かることを関連付けて考える学習を行ってきた成果と考えられる。 ●工業製品の種類については、細かな分類に課題が見られた。	・身近な工業製品を取り上げ、その材質や作り、製品が完成するまでの過程について考えることで、分類する思考力を育てていくようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均と比べて0.7ポイント高い。 ○森林を守るための間伐について考える問題では、市の平均を20ポイント上回っている。林業に携わる人の様々な工夫について、「とちぎの森林・自然環境」などの資料を活用した成果と考えられる。 ●自然災害から命を守る取り組みの理解に課題が見られた。	・自然災害や命を守る取り組みについては、理科や学級活動、道徳などで学習する内容と関連させながら、理解を深められるようにする。 ・情報の扱い方を理解させるために、インターネットをどのように使っていくか、知識のみを教え込む授業ではなく、実際の使い方を体験させる活動を取り入れる。
日本の政治	平均正答率は、市の平均と比べて4.1ポイント高い。 ○三審制に着目して、国民の人権を守るための裁判のしくみについて捉える問題では、市の平均を17.7ポイント上回っている。国民の基本的な人権と関連させて学習を行った成果と考えられる。 ●日本国憲法における天皇の地位についての理解に課題が見られた。	・日本国憲法の三原則や三権分立の確実な理解のために、単元で学習した内容を、自分たちの生活の場面や日々のニュース内容に置き換えながら考える活動を継続的に取り入れる。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と比べて3.7ポイント高い。 ○鎌倉時代のご恩と奉公について資料を読み取る問題では、市の平均を11.4ポイント上回っている。それぞれの時代の出来事を、場所や人物、大切な言葉を関連させながら捉える学習を継続してきた結果と考えられる。	・単元ごとや単元間における、時間の経過・事象や人々の相互関係に着目して捉える学習を継続することで、歴史の学習をとおして、社会的事象等の見方や考え方の素地を養っていくようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.9	72.6	71.6
	図形	77.1	74.4	72.0
	変化と関係	72.9	69.8	62.6
	データの活用	69.3	65.5	59.1
観点別	知識・技能	76.5	74.1	68.9
	思考・判断・表現	66.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

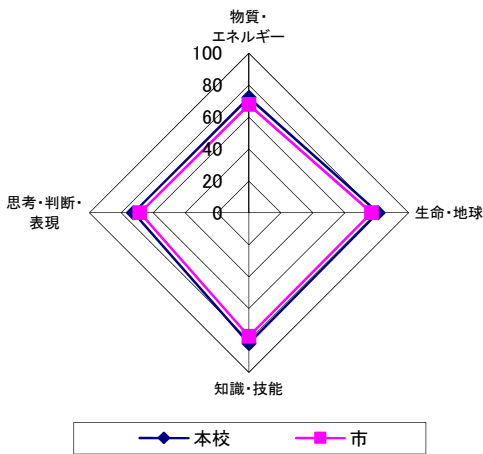
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて2.3ポイント高い。 ○分数の除法の文章問題では、市の平均を10.2ポイント上回っている。式を導き出すための線分図を理解するために実際に書いてみる学習を前学年から継続して行ってきた結果と考えられる。 ●分数の計算では、真分数＋真分数で、分母同士をかける通分をする計算に課題が見られた。	・分数の加減乗除のそれぞれの計算で、答えを導き出す過程で必要な通分や約分が正確にできるように、類似問題等で復習を行う。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて2.7ポイント高い。 ○合同な三角形の作図では、市の平均を5.8ポイント上回っている。前学年でチームティーチングを取り入れ、作図の学習に丁寧に取り組んだことの成果と考えられる。 ●正多角形・合同・立体では、三角柱の展開図から、見取り図の辺の長さを読み取ることに課題が見られた。	・具体物を用いて立体の作りを確かめたり、見取り図や展開図を書いたり、児童の習熟度合に応じて理解させながら学習を進めるようにする。 ・三角定規やコンパス等の作図道具を、問題に合わせて使い分けたり、平行や長さ、角度を調べる際に使ったりできるように、問題練習を重ねて定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて3.1ポイント高い。 ○単位量あたりの大きさの問題では、図から面積と人数の割合を求め、どのシートが最も混んでいるかを考察する問題で、市の平均を17.7ポイント上回った。混み具合を考える際に、場面を比べたり、一人当たりの面積を考える学習を繰り返し取り組んだことの成果と考えられる。 ●速さでは、同時にゴールするために、兄が走る時間と弟が走る速さから、弟が走る距離を何mにすればよいか記述をする問題に課題が見られた。	・時間と速さ、距離の関係について整理し、問題の場面からそれぞれを求めることができるようにする。 ・単位の意味を理解させ、問題に合わせた換算ができるように指導をしていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて3.8ポイント高い。 ○データの見方では、度数分布表の理解で、市の平均を4.9ポイント上回った。習熟度学習を取り入れ、それぞれの児童が確実に理解できるように取り組んだことの成果と考えられる。 ●データの見方では、最頻値の理解に課題が見られた。	・最頻値や中央値を正確に導き出せるよう、言葉の意味を確認したりドットプロットの見方を整理したりする。 ・様々な場面を想定した問題練習を重ねることで、平均値が正確に求められるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.1	67.8	64.1
	生命・地球	80.9	76.7	78.3
観点別	知識・技能	81.8	77.4	78.3
	思考・判断・表現	72.3	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べて4.3ポイント高い。 ○振り子の周期がどのように変わるかを説明する問題では、正答率が市の平均を10ポイント上回っている。実験の結果を考察する活動を確実に行った成果であると考えられる。 ●物のとけ方では、ろ過についての問題に誤答が多く、液体と固体を分ける方法の理解に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験をする際、ただ実験をするのではなく、何を明らかにするための実験なのかをきちんと児童に示すようにする。また、実験から得られた結果から、何が考察できるのかをペア学習やグループ学習を取り入れて、一人一人が考えたり、表現したりできるようにしていく。 ・ろ過の方法や、用具の正しい操作について確認するとともに、実験のやり方についても、実験の前にきちんと児童にやり方を示し、正しく実験できるようにしていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均と比べて4.2ポイント高い。 ○気体検知管の目盛りを読み取る問題では、正答率が市の平均を7.8ポイント上回っている。実験の際にすべての児童に気体検知管に触れさせ、酸素、二酸化炭素などの目盛りを読み取らせる活動を複数回行った成果であると考えられる。 ●天気の変化では、春の日本付近の天気の変化り方の問題に誤答が多く、季節による天気の変化の理解に課題が見られた。	・より正しく実験ができる技能の向上を図るために、実験をする際には、その方法についてよく理解させる。 ・実験結果を比較したり考察したりする技能の向上を図るために、実験では条件を変えるものと変えないものがあることを常に確認したり、実験の結果とそこから考えられることを共有したりしていく。 ・生命・地球の領域においては、できるだけ実物を使って見せたり観察したりするようにしていく。実物を使って見せることのできない場合は、デジタル資料を使い、動画などで児童が実感を伴って理解できるようにしていく。